

- 問1 冬の北海道において、流水が地域の産業や生活に与えている側面について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛知県公立入試 類似)
1. 海面が氷で覆われることで魚の回遊が促進されるため、冬の時期にオホーツク海での大規模な漁船漁業が最も盛んになる。
 2. 氷の重みを利用して港の海底を深く削り取る天然の浚渫（しゅんせつ）効果があるため、大型船の入港を助けている。
 3. 流水に含まれる豊富な塩分を精製して塩を作る工場が沿岸部に多く建設され、冬の主要な地場産業となっている。
 4. 氷を割って進む砕氷船の運航や流水の上を歩く体験など、冬の貴重な観光資源として活用されている。
- 問2 北海道地方の気候の特色について、6月から7月にかけての状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 南東から吹き込む湿った季節風の影響により、本州よりも早く本格的な雨期が訪れる。
 2. 停滞前線が長期間にわたって停滞するため、年間で最も降水量が多い時期となる。
 3. 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期がはっきりしない。
 4. 北東から吹く冷たい風（ヤマセ）の影響で、この時期だけ急激に降水量が増加する。
- 問3 北海道において、スマート農業が他地域に先駆けて積極的に推進されている理由を、土地利用の状況と社会的な背景から考察した説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 高齢者の割合が全国で最も低く、新しい技術を操作できる若者が過剰に存在するため
 2. 広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため
 3. 小規模な農地が密集しているため、ドローンを使わなければ肥料が隣地に飛散するため
 4. 山間部が多く機械の導入が困難なため、ICTによる遠隔操作が唯一の手段であるため
- 問4 2012年から2016年にかけての、北海道における外国人宿泊者数の推移と傾向について述べた文として、統計的事実に基づいた正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. 北海道を訪れる外国人宿泊者数は、2012年と比較して2016年には夏季・冬季ともに減少し、日本人観光客中心の構成へと変化した。
 2. 外国人宿泊者数は通年で増加傾向にあるが、2016年時点の統計においても、依然として夏季の宿泊者数が冬季を大きく上回っている。
 3. 2012年から2016年にかけて、夏季の外国人宿泊者数は順調に増加しているが、冬季については横ばい、または微減の傾向にある。
 4. 2012年から2016年にかけて、外国人宿泊者数は夏季・冬季ともに大幅に増加しており、特に冬季の宿泊者数が夏季を上回る傾向が顕著になっている。
- 問5 日本の都道府県の配置において、最北端に位置する北海道は、新潟県や鹿児島県といった他の地域と比較して特有の自然環境を有しています。北海道の大部分を占める気候帯の背景や仕組みについて述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
1. 周囲を海に囲まれているため、本州の山梨県などの内陸部よりも夏は暑い。
 2. 季節風の影響で一年中雨や雪が多く、夏と冬の気温差がほとんどない。
 3. 高緯度に位置するため冬の寒さが厳しく、年間の気温差が非常に大きい。
 4. 日本海を流れる暖流の影響を強く受けるため、冬でも比較的温暖である。
- 問6 北海道の農業経営に関する統計を分析すると、経営耕地面積が30ha以上の大規模な農家が6割以上を占める一方で、都府県では1.0ha未満の農家が半数以上を占めるという対照的な構造が見られます。また、北海道では農業を主な仕事とする「主業農家」の割合が約74%に達しています。このように北海道で主業農家の割合が極めて高い理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 長野県公立入試 類似)
1. 消費地である大都市から遠く離れているため、輸送費を節約するために加工品を専門にする農家が急増したから
 2. 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから
 3. 広大な土地を利用して、小規模な水田では不可能な低コストの米作りを行い、全国の米需要のほとんどを賄っているから
 4. 都府県に比べて冬の農閑期が長いため、冬の間だけ工業地帯へ出稼ぎに行く農家が全農家の約8割を占めているから
- 問7 北海道の農業について、生産統計で全国の約78%のシェアを占める「じゃがいも」と、約79%を占める「てんさい」の共通する特徴として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 長野県公立入試 類似)
1. 亜熱帯の温暖な気候を好む作物である
 2. 成長に大量の高温多湿な環境を必要とする作物である
 3. 水はけの悪い湿地での栽培に適した作物である
 4. 寒冷な気候での栽培に適した作物である
- 問8 北海道において、宿泊施設の延べ宿泊者数や温泉地数が全国的に見て極めて多い水準にある理由と、その観光業の特色について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 冬季の積雪が厳しいため、観光の主力は夏場の避暑や農業体験に限定されており、季節による宿泊者数の変動が極めて大きい構造となっているため。
 2. 火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。
 3. 歴史的な寺社仏閣が全国で最も多く、それらの伝統的建造物を宿泊施設として再利用する取り組みが全道で進んでいるため。
 4. 首都圏からの距離が近いこと、日帰りの観光客を主なターゲットとした小規模な宿泊施設が特定の都市に集中し、効率的な運営が行われているため。
- 問9 札幌市の中心部で、道路が垂直・水平に交わり区画が整理された「格子状の街路」が採用された背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 島根県公立入試 類似)
1. 広場を中心に道路が四方八方へ伸びる、中世ヨーロッパの都市計画をそのまま導入したため。
 2. 自然発生的に形成された集落が、人口増加に伴って地形に合わせて四方に拡大していったため。
 3. 江戸時代の城下町の構造を引き継ぎ、敵の侵入を防ぐために見通しの良い道路を配置したため。
 4. 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。
- 問10 北海道の北東側に面し、千島列島へと連なる海域において、冬季にシベリア沿岸から流水が押し寄せることが大きな特徴となっている海域の名前を選びなさい。 (2024年 石川県公立入試 類似)
1. オホーツク海
 2. 東シナ海
 3. 日本海
 4. 太平洋
- 問11 ある都市の統計データにおいて、年平均気温が7.9度、年降水量が1239.2mmであり、夏（7・8月）の気温が約20度と低く、冬の降水量が非常に少ないという特徴が見られました。この都市が位置する地域とその気候の背景について述べた文として正しいものを選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)
1. 北海道の太平洋側に位置しており、夏は海からの湿った冷たい風などの影響で気温が上がりにくく、冷涼な気候となる。
 2. 中央高地に位置しており、標高が高いために年平均気温は低いが、日照時間が長いこと夏の日中の気温は非常に高くなる。
 3. 北陸地方の日本海側に位置しており、冬は対馬海流の影響を受けた湿った風が山地にぶつかるため、世界的な豪雪地帯となる。
 4. 瀬戸内海沿岸に位置しており、周囲を山地に囲まれているため、年間を通じて降水量が少なく、夏は非常に高温になる。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 氷を割って進む砕氷船の運航や流氷の上を歩く体験など、冬の貴重な観光資源として活用されている。	流氷は船舶の航行を妨げたり漁業を一時的に休止させたりする側面もありますが、一方で北海道を象徴する「観光資源」としての価値が高まっています。網走や紋別での砕氷船ツアー、知床での流氷ウォークなどは、冬の北海道観光の大きな柱となっています。
問2	答え 3 梅雨の影響をほとんど受けないため、本州以南で見られるような長期間の雨期がはっきりしない。	北海道は地理的に緯度が高く、本州以南に長雨をもたらす梅雨前線（停滞前線）が北上してくる頃には勢力が弱まったり、消滅したりすることが多いため、明確な「梅雨」が存在しません。これは北海道の大きな気候の特色の一つであり、この時期の降水量が本州に比べて少ないことは、観光や農業における利点となることもあります。
問3	答え 2 広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため	北海道の農業は、全国平均の約14倍という広大な耕地面積を誇りますが、従事者の高齢化と減少が進行しています。広すぎる土地を限られた人数で管理しなければならないという北海道特有の状況が、自動運転やロボットによる「省力化（労働力を節約すること）」を強く必要とさせており、スマート農業の普及を後押ししています。
問4	答え 4 2012年から2016年にかけて、外国人宿泊者数は夏季・冬季ともに大幅に増加しており、特に冬季の宿泊者数が夏季を上回る傾向が顕著になっている。	2012年から2016年の統計を確認すると、北海道を訪れる外国人宿泊者数は通年で大きく伸びています。特に冬季（12月～3月）の伸びが著しく、2012年の約117.2万人から2016年には約300.9万人へと急増しました。この結果、冬季の宿泊者数が夏季（6月～9月）の宿泊者数を上回るという、北海道観光の新しい特徴が示されています。
問5	答え 3 高緯度に位置するため冬の寒さが厳しく、年間の気温差が非常に大きい。	北海道が属する亜寒帯（冷帯）は、赤道から離れた高緯度地域に特有の気候です。太陽からのエネルギーが少ないため冬は極めて寒冷になりますが、夏は日照時間が長くなるため一定の気温まで上昇します。その結果、夏と冬の気温の差が他の温帯地域よりも顕著に現れるというメカニズムを持っています。
問6	答え 2 1戸あたりの経営規模が大きく、大型機械を用いた効率的な生産によって、農業のみで十分な所得を得ることが可能だから	北海道では広大な経営耕地面積を活かし、大型のトラクターなどを導入した大規模経営が確立されています。労働生産性が高く、1世帯あたりの農業所得を十分に確保できる環境があるため、他の仕事を持つ必要性が低く、結果として主業農家の割合が高まります。一方で都府県は経営面積が狭いため、農業所得だけで生計を立てることが難しく、多くの農家が兼業化（副業的農家など）しています。
問7	答え 4 寒冷な気候での栽培に適した作物である	北海道は梅雨の影響が少なく、夏でも比較的涼しいという気候の特色があります。この条件を活かし、寒さに強い「じゃがいも」や「てんさい」といった作物の栽培が大規模に行われています。じゃがいもは食用やでんぷんの原料、てんさいは砂糖の原料として、全国の食卓を支える重要な農産物となっています。これらは稲作が困難だった寒冷な地域において、重要な基幹作物として発展してきました。
問8	答え 2 火山帯に位置する地理的条件を活かした温泉地が各地にあり、広大な自然景観やパウダースノーなどの地域資源を求めて国内外から多くの観光客が訪れるため。	北海道には活発な火山活動に由来する温泉地が数多く存在します。これに加えて、国立公園に指定されるような広大な自然環境や、冬の質の高い雪といった独自の資源が観光の目玉となっています。これらが大規模な宿泊施設の整備と結びつき、高い延べ宿泊者数を維持する要因となっています。
問9	答え 4 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。	札幌は1869年に設置された開拓使によって、何も無い原野から計画的に建設された人工的な都市です。アメリカの都市計画や京都の条坊制を参考に、行政機能や居住区を効率的に配置し、交通の利便性を高める目的で格子状の街路が導入されました。これは、古い歴史を持つ都市が地形や防衛上の理由から不規則な街路を持つことが多いのと対照的です。
問10	答え 1 オホーツク海	北海道の北側に位置するこの海域は、冬になるとアムール川から流れ込む淡水の影響で塩分濃度が低くなった海水が凍り、それが季節風に乗って南下してくる「流氷」が見られることで有名です。日本の周辺海域でこのような大規模な流氷が観測されるのは、この海域特有の現象です。
問11	答え 1 北海道の太平洋側に位置しており、夏は海からの湿った冷たい風などの影響で気温が上がりにくく、冷涼な気候となる。	問題文にある「年平均気温が約8度」「夏が20度前後と冷涼」「冬の降水量が少ない」というデータは、北海道の太平洋側に位置する苫小牧市などの典型的な特徴です。太平洋側では、夏に千島海流（親潮）の上を吹き渡る冷たい湿った空気の影響で、気温がそれほど上がらず冷涼な夏となります。一方で冬は、日本海側で雪を降らせた後の乾燥した空気が流れ込むため、降水量が抑えられます。これに対し、日本海側の金沢などでは冬の降水量が非常に多くなるため、対照的なグラフとなります。